

<今回>193回目 2016年8月22日(月)15時~18時 302号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」16P邪馬台国論争は終わった より

<前回>192回目(16-8-8) 出席者10名

資料 16-08-08-1 前回のまとめ(清水)

- 2 榎一雄氏の反論(6回分)のワープロ文(富川)
- 3 津田左右吉歴史論文集(富川)
- 4大和朝廷説の始まり(富川)
- 5武烈天皇紀における「倭君」(富川)
- 6加賀と肥後の道君(富川)
- 7書いてある理由がすべてだ(富川)

A 報告

小松さんを長井、初田、横山、清水で横須賀の介護老人保健施設にお見舞に行ってきた様子を報告。自宅で心筋梗塞で倒れた後、この施設に收容された経過を聞く。個室で早く出たいが息子と施設側とが暑い間は此処に居れとここを出してくれない。現在は歩行が多少困難であるが全部施設でやってくれる。食事の味が薄いのでまずい。早く出たい。横山さんに週刊誌を3種類も注文していた。

津多家で会食9名、19338円(2000円・9名) —1338円

B 資料 -2)は榎氏の反論の最初の6回分のワープロ化してくれたもの。(1)三国志の解説、当初から良史の評判がたかく、陳寿が亡くなると時の天子(恵帝)は人を派遣して筆写させ、宮中に備えさせた。晋代には早くも中央アジアにも流伝している。トルファンから出土したいわゆる呉志残卷がある。(注は入っていない)。有名な裴松之の注は宋の文帝の時、命ぜられて五六種の書物から引用された跡がある。この原書は失われているから、裴松之の功績はこれだけでもすごい。体裁も各種ある。江戸時代には日本刊本(静嘉堂蔵書)呉書を底本とした咸平刊本などがある。(2)印刷は咸平3年(1000年)校勘。呉志(静嘉堂所蔵)巻20の末書に経過が書いてあるので判る。補刻は年代が書かれているので貴重である。紹興刊本、紹熙刊本ともに明の嘉靖年間の刊本が静嘉堂に有る。いろいろな体裁があり、いわゆるO本という表現で論を進めているからよく勉強している事はわかる。日本古代史学会に魏志倭人伝の版本が登場した経緯を細かく述べている。(3)張元済の来日調査 宮内庁書陵部の紹熙本(最初の魏志3巻を除く)の写真をとり、自分の所の上海商務印書館・范芑樓の所蔵する紹興本の最初の魏志3巻をそれに補充して、紹熙本主体の三国志を完成した。張元済が一番良い版本とした紹熙本をもとに論を進めたのに対して、原形とか絶対正しいとか古田が言っていると云い換えて非難している。これに誤字、誤刻問題をとりあげて補強している。

C 読書「邪馬壹国の論理」P13厳正な史料処理を貫く から

- 1) 記紀の表現のルールを厳格に守り、そこに古代人の認識を見ようとした。基本は安易な原文改定に走らないこと。
- 2) 戦後古代史学は津田左右吉の権威によりすぎり、後代造作説は自明の命題であるか、疑問を持った。史料の取り扱いを厳正にする。論証それ自身の権威に依拠する。近畿天皇家に先在した九州王朝というテーマである。
- 3) 古事記の天孫降臨神話のニギハヤヒの命の言葉。6字4句の四至文(北は韓国に到り、南は笠沙の御前に)に真実を発見した。

次回日程 2016-9-5(月) 16時~18時 303号室

-9-23(金)16時~18時 1503号室